

2 夫婦間での行為における暴力としての認識

11項目の行為をあげて、それが夫婦間で行われた場合に「暴力」にあたると思うかの意識を聞いた(図2-1)。この調査の中では、「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含んでいる。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が多いのは、“身体を傷つける可能性のある物でなくる”(92.1%)と“刃物などを突きつけて、おどす”(91.2%)で、9割強が『暴力にあたる』と認識している。

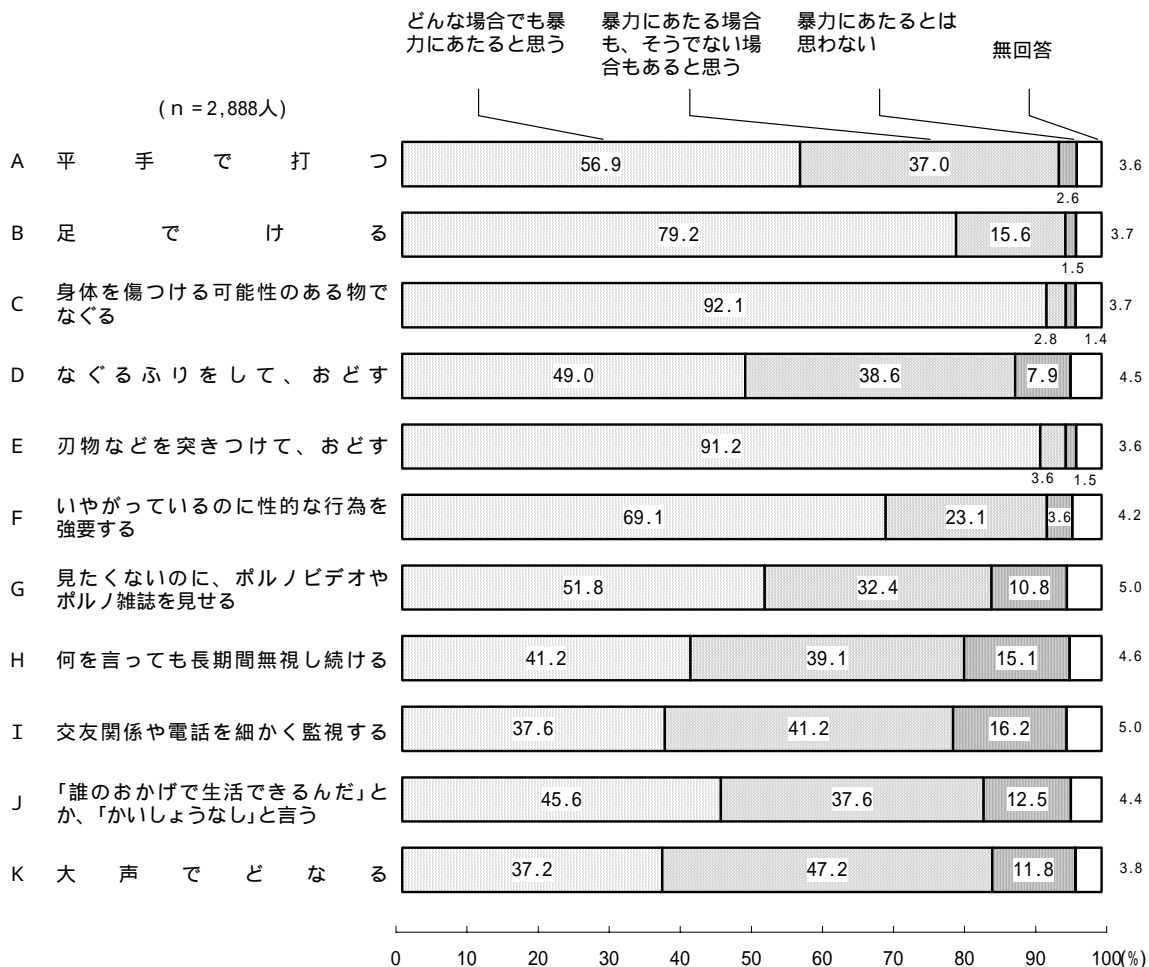
また、“足でける”(79.2%)は8割、“いやがっているのに性的な行為を強要する”(69.1%)は7割が、それぞれ「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考えている。

一方、“大声でどなる”については、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という人が47.2%と、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(37.2%)という人を10ポイント上回っている。

これに対して、「暴力にあたるとは思わない」と考える人が比較的多かったのは、“交友関係や電話を細かく監視する”(16.2%)と“何を言っても長期間無視し続ける”(15.1%)で、暴力であるという認識を持っていない人が15%程度となっている。

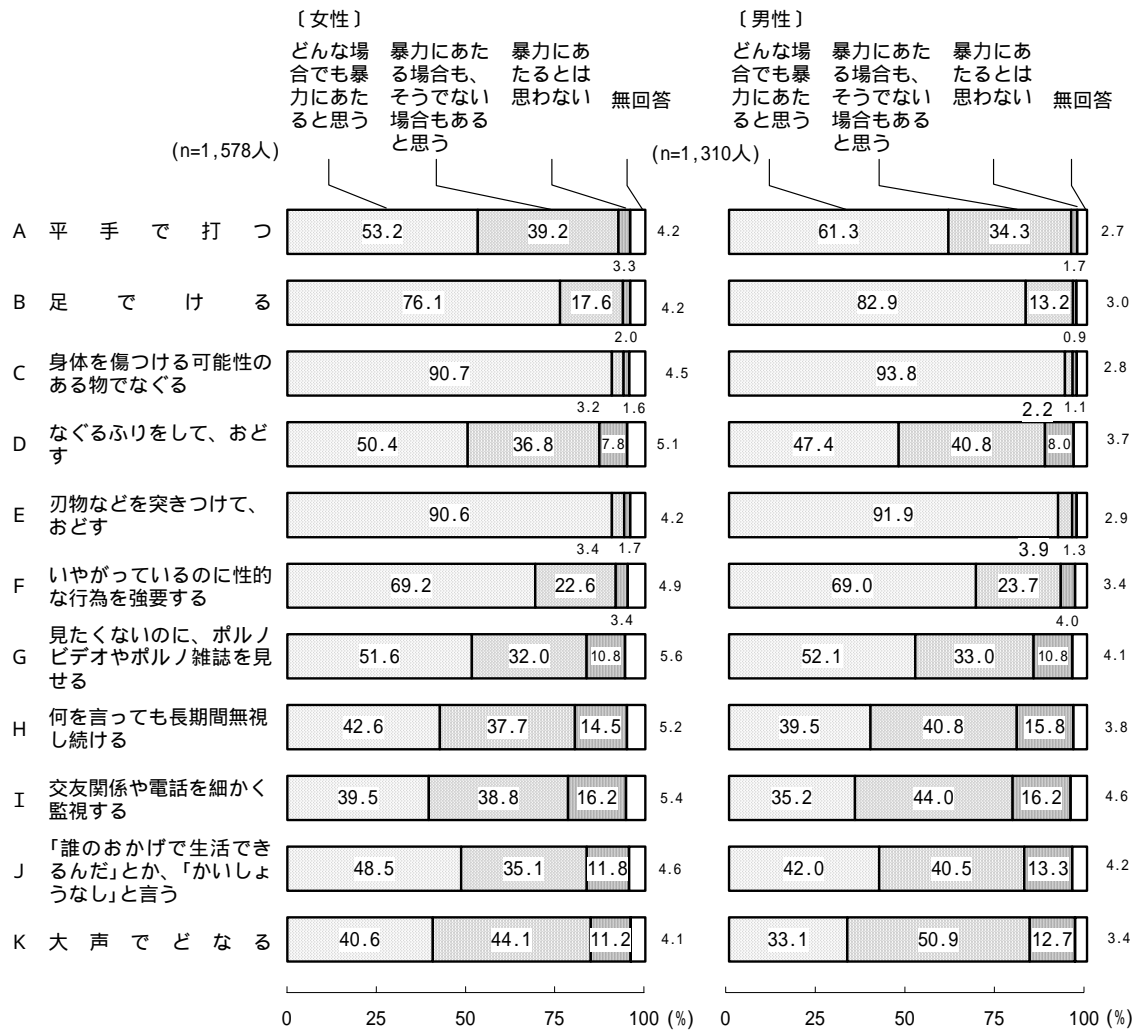
問3 あなたは、次のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。AからKのそれぞれについて、1から3のうちあなたの考えに近い番号に をつけてください。
(はそれぞれ1つずつ)

図2-1 夫婦間での行為における暴力としての認識



男女別にみると(図2-2)、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答えた暴力としての認識を持つ人は、“足でける”(女性76.1%、男性82.9%)と“平手で打つ”(同53.2%、61.3%)は女性より男性に、“「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う”(同48.5%、42.0%)と“大声でどなる”(同40.6%、33.1%)は男性より女性に、それぞれ多くなっている。

図2-2 夫婦間での行為における暴力としての認識(男女別)



平成11年度調査および平成14年度調査と共通する11項目について認識の変化をみると(図2-3) 身体に対する行為について、平成14年度よりも暴力としての認識が低くなっている項目が多い。

図2-3 夫婦間での行為における暴力としての認識 - 時系列比較

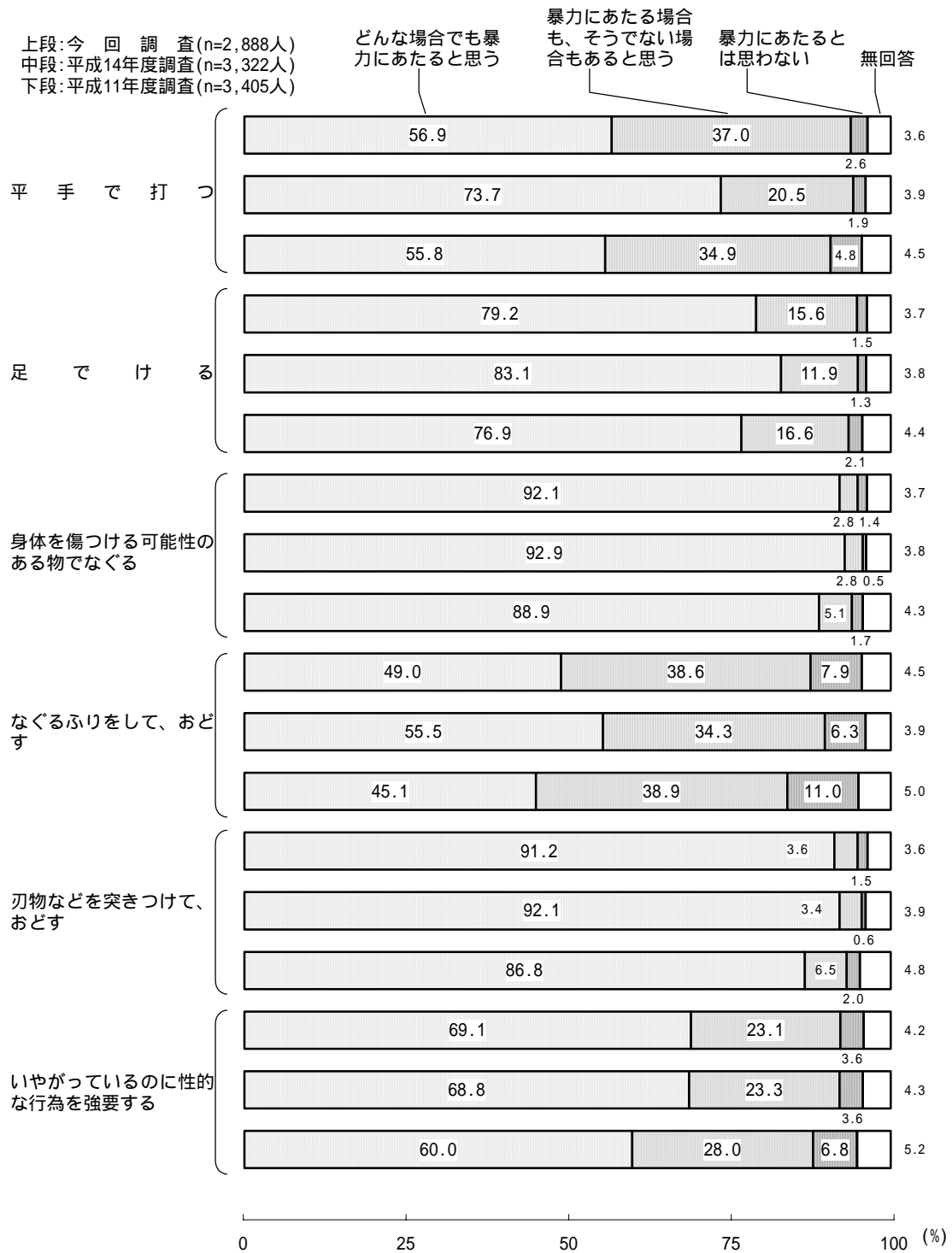
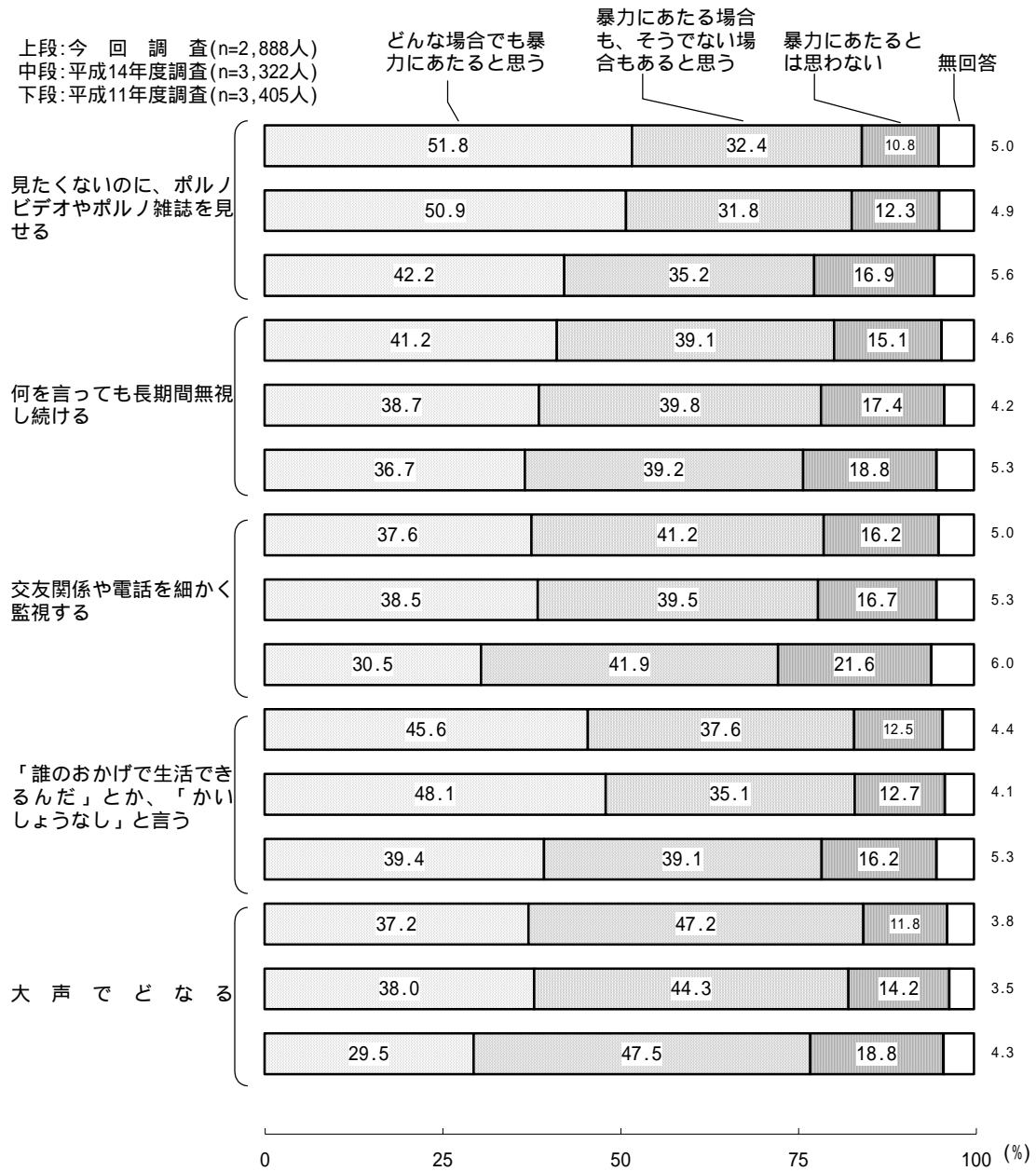
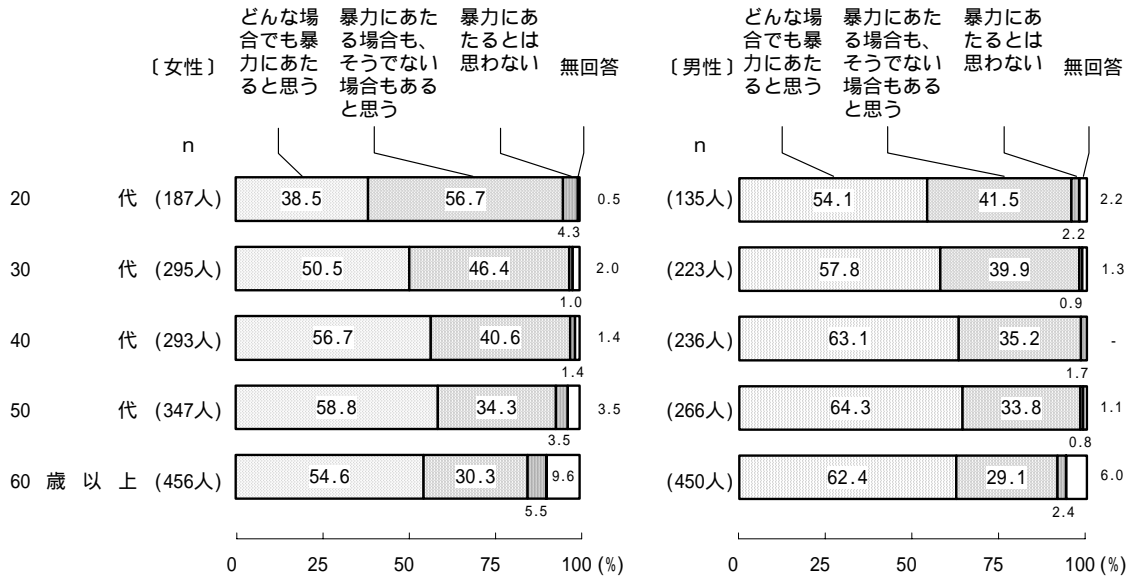


図2 - 3 ・ つづき



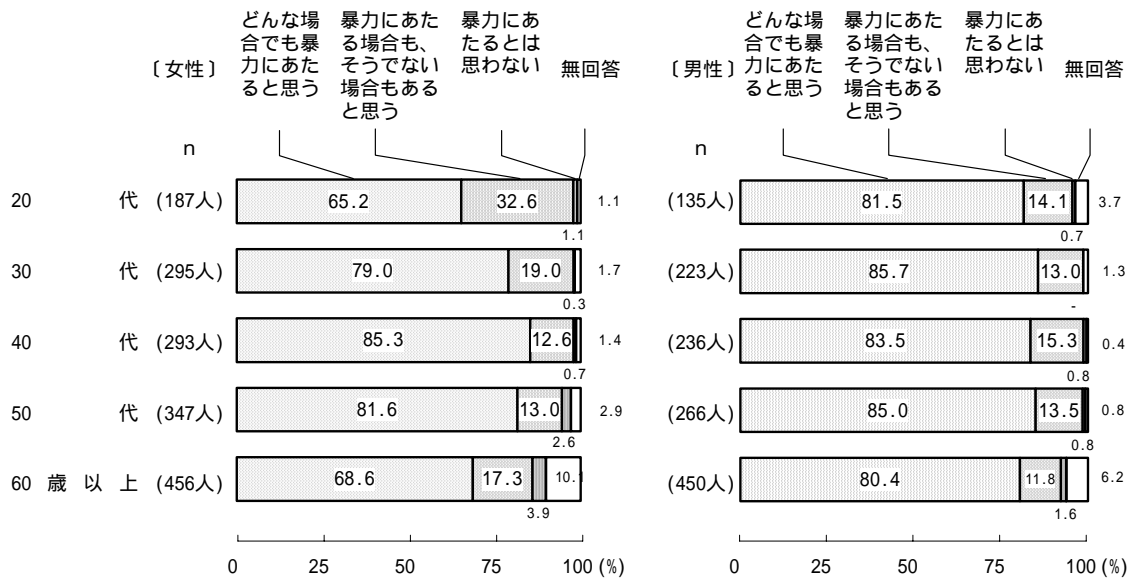
各項目について性・年齢別にみると、まず、“平手で打つ”は(図2-4)男女とも若年層ほど「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」人がやや多くなる傾向があり、特に女性の20代では56.7%となっている。

図2-4 夫婦間での行為における暴力としての認識 - “平手で打つ”(性・年齢別)



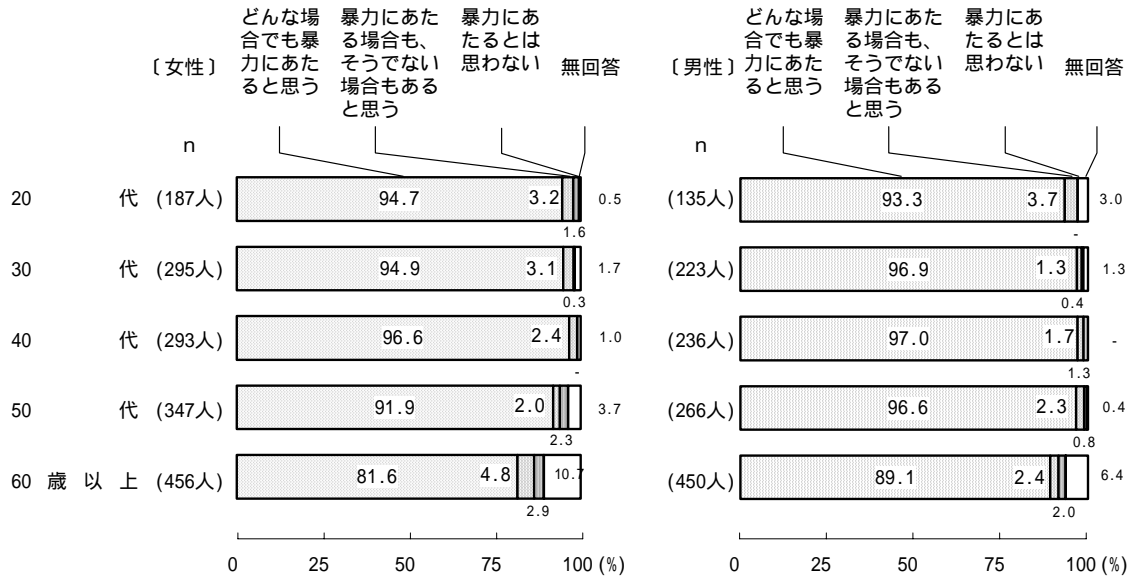
“足でける”は(図2-5)男女ともいずれの年齢層でも「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人が多数を占めるが、20代の女性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(32.6%)という人が3割強と、他の性・年齢層より多くなっている。

図2-5 夫婦間での行為における暴力としての認識 - “足でける”(性・年齢別)



“ 身体を傷つける可能性のある物でなく ” は (図 2 - 6) 男女ともすべての年齢層で、ほとんどが「どんな場合でも暴力にあたると思う」と認識している。

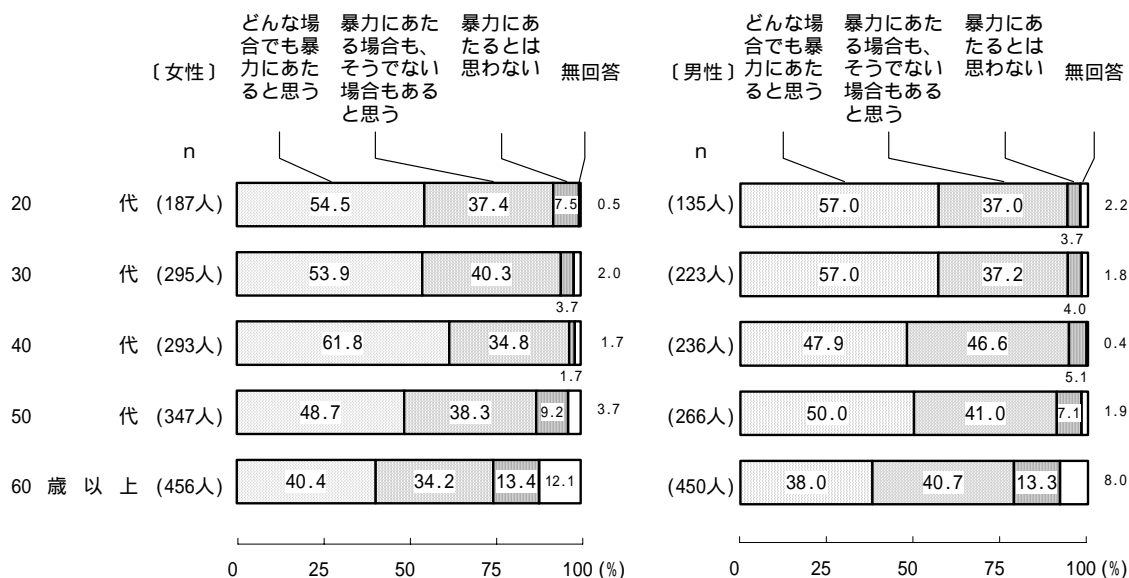
図 2 - 6 夫婦間での行為における暴力としての認識 - “ 身体を傷つける可能性のある物でなく ” (性・年齢別)



“ なくるふりをして、おどす ” ことを「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人は、女性の 40 代 (61.8%) で 6 割強と多くなっている。一方、男性の 40 代と 60 歳以上の年齢層では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(40 代 47.9%、60 歳以上 38.0%) と「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(同 46.6%、40.7%) が、ほぼ同率となっている (図 2 - 7)

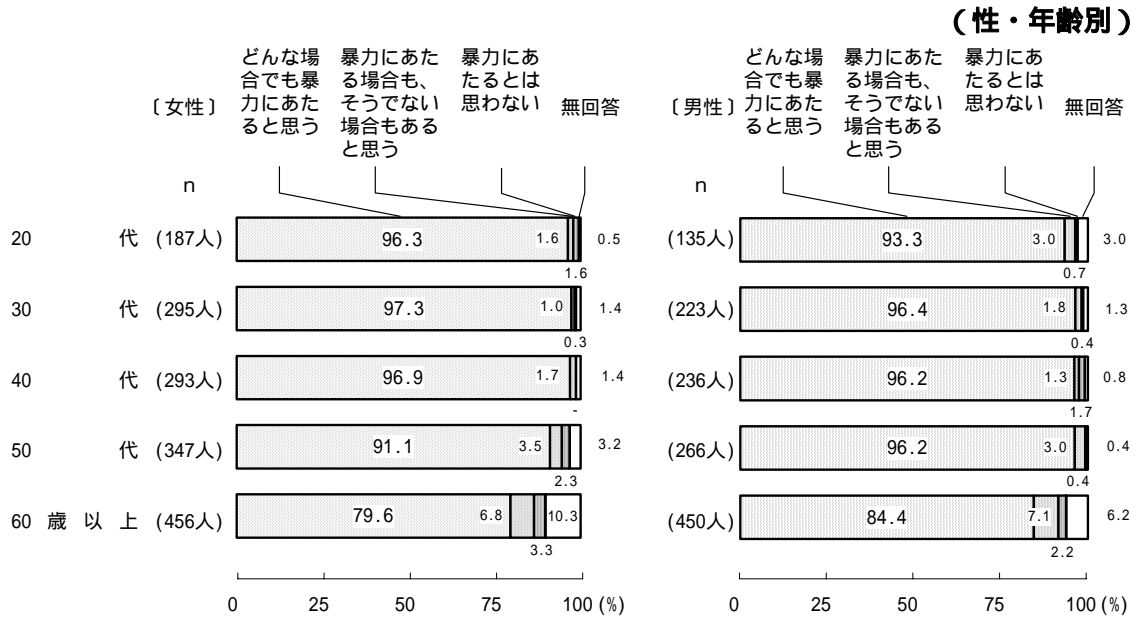
また、男女とも 60 歳以上の年齢層では、1 割以上が「暴力にあたるとは思わない」(女性 13.4%、男性 13.3%) と答えている。

図 2 - 7 夫婦間での行為における暴力としての認識 - “ なくるふりをして、おどす ” (性・年齢別)



“刃物などを突きつけて、おどす”ことについては(図2-8)男女とも50代までの年齢層では暴力としての認識が9割以上と高くなっている。一方、男女とも60歳以上の年齢層では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」人(女性6.8%、男性7.1%)が1割弱となっている。

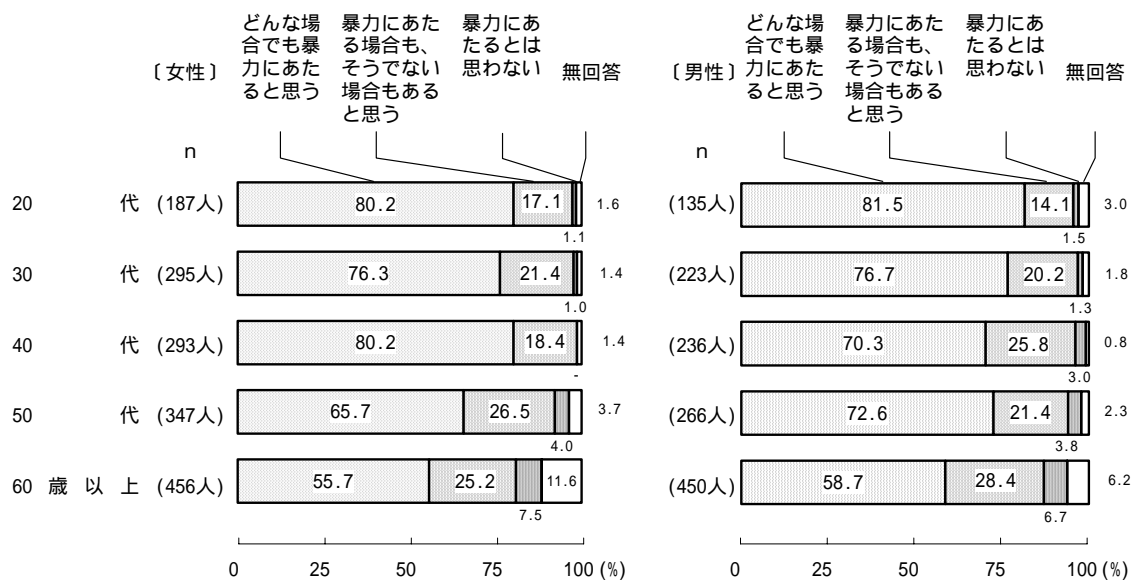
図2-8 夫婦間での行為における暴力としての認識 - “刃物などを突きつけて、おどす”



“いやがっているのに性的な行為を強要する”ことを、「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人は(図2-9) 男女とも若年層ほど多くなる傾向があり、女性の20代から40代までと男性の20代から30代では、8割前後となっている。

これに対して、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という人は、男女とも高年齢層ほどやや多くなる傾向があり、女性の50代(26.5%)から60歳以上(25.2%)と男性の40代(25.8%)と60歳以上(28.4%)では3割弱である。60歳以上の年齢層では、「暴力にあたるとは思わない」(同7.5%、6.7%)と考える人も男女とも1割弱と、他の性・年齢層よりやや多く、暴力としての認識が低くなっている。

図2-9 夫婦間での行為における暴力としての認識
- “いやがっているのに性的な行為を強要する”(性・年齢別)

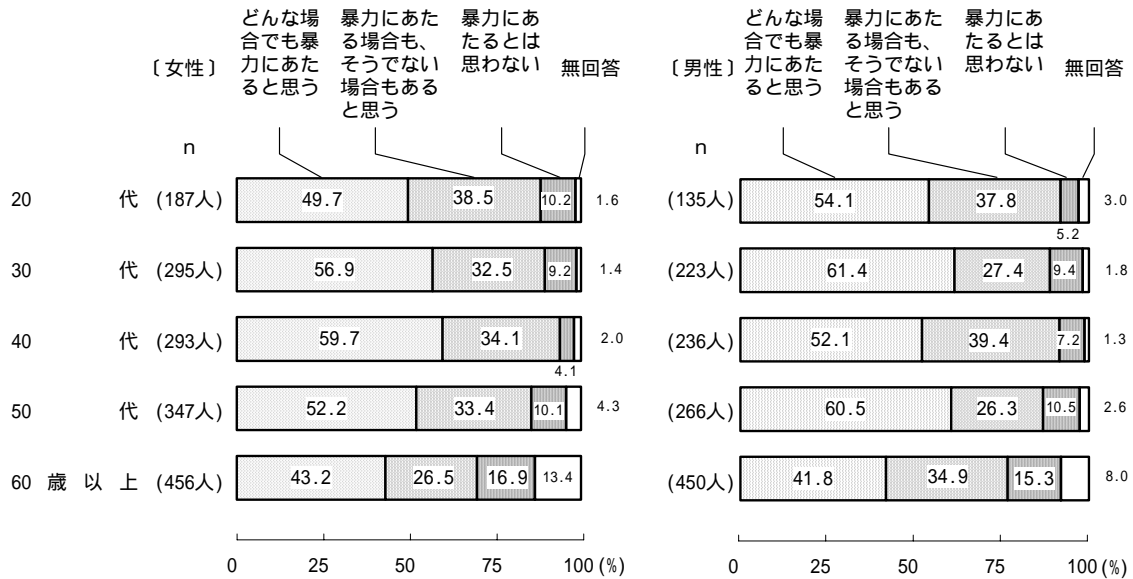


“見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる”ことを「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人は、女性の30代(56.9%)から40代(59.7%)と男性の30代(61.4%)と50代(60.5%)で、6割前後となっている(図2-10)。

これに対して、男女とも60歳以上の年齢層では「暴力にあたるとは思わない」(女性16.9%、男性15.3%)という人が15%程度と、他の性・年齢層に比べて多くなっている。

図2-10 夫婦間での行為における暴力としての認識

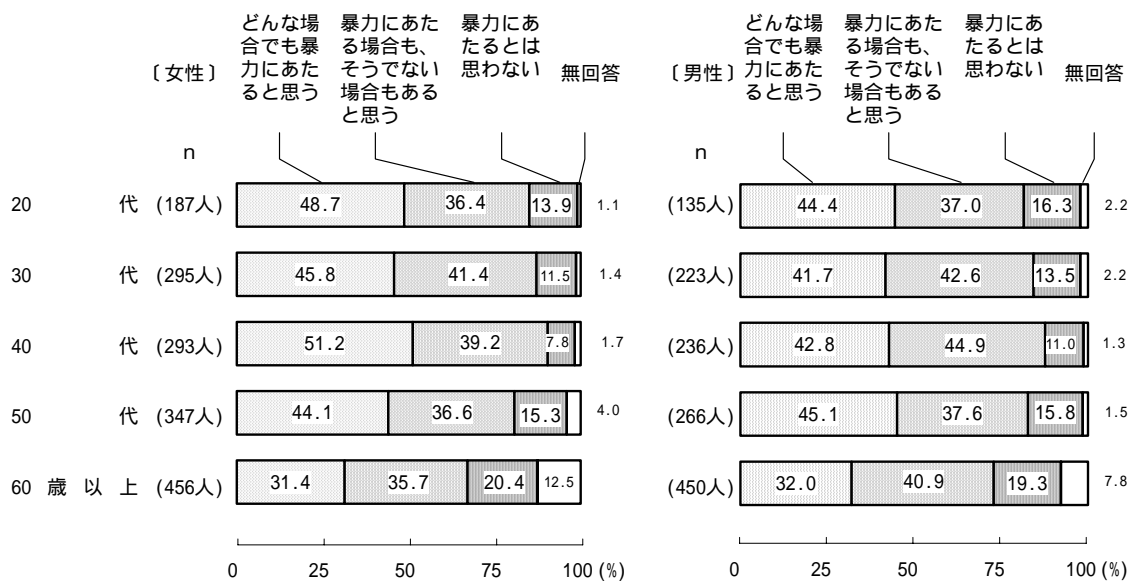
- “見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる”(性・年齢別)



“何を言っても長期間無視し続ける”ことを「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人は、女性の20代（48.7%）と40代（51.2%）で5割前後となっている。一方、男性の30代から40代では「どんな場合でも暴力にあたると思う」人（30代41.7%、40代42.8%）と「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」人（同42.6%、44.9%）が、ほぼ同率となっている（図2 - 11）。

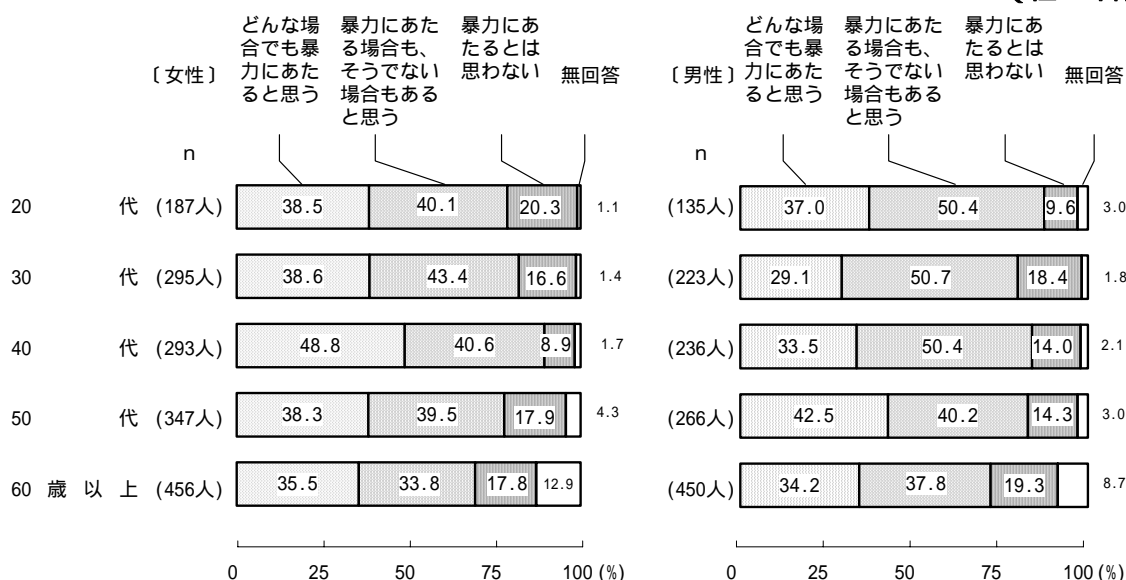
一方、男女とも60歳以上の年齢層では「暴力にあたるとは思わない」（女性20.4%、男性19.3%）という人が2割と、暴力としての認識が低い。

図2 - 11 夫婦間での行為における暴力としての認識 - “何を言っても長期間無視し続ける”
(性・年齢別)



“交友関係や電話を細かく監視する”ことについては(図2-12)女性の40代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」(48.8%)と考える人が5割近くになっているが、その他の性・年齢層では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」とほぼ同率が、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と考える人の方が多くなっており、特に男性の20代から40代では半数を占めている。

図2-12 夫婦間での行為における暴力としての認識 - “交友関係や電話を細かく監視する”
(性・年齢別)

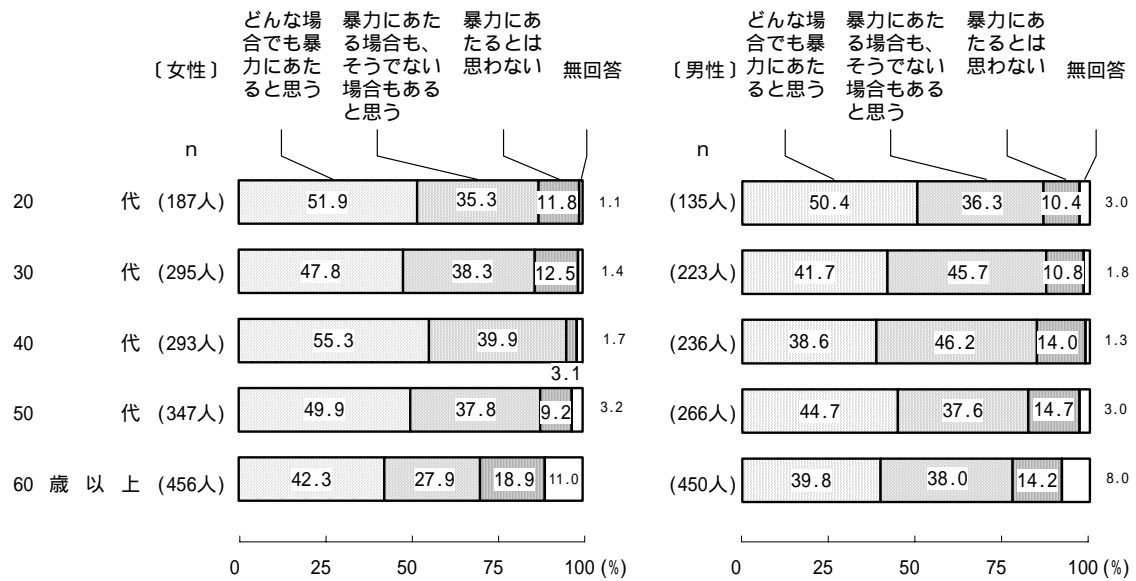


“「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う”ことを「どんな場合でも暴力にあたると思う」人は、女性の40代では55.3%で、他の性・年齢層より多くなっている（図2 - 13）。

一方、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という人は、男性の30代(45.7%)から40代(46.2%)で半数近くになっている。また、「暴力にあたるとは思わない」と考える人は、女性の60歳以上（18.9%）の年齢層で2割弱と、他の年齢層よりやや多くなっている。

図2 - 13 夫婦間での行為における暴力としての認識

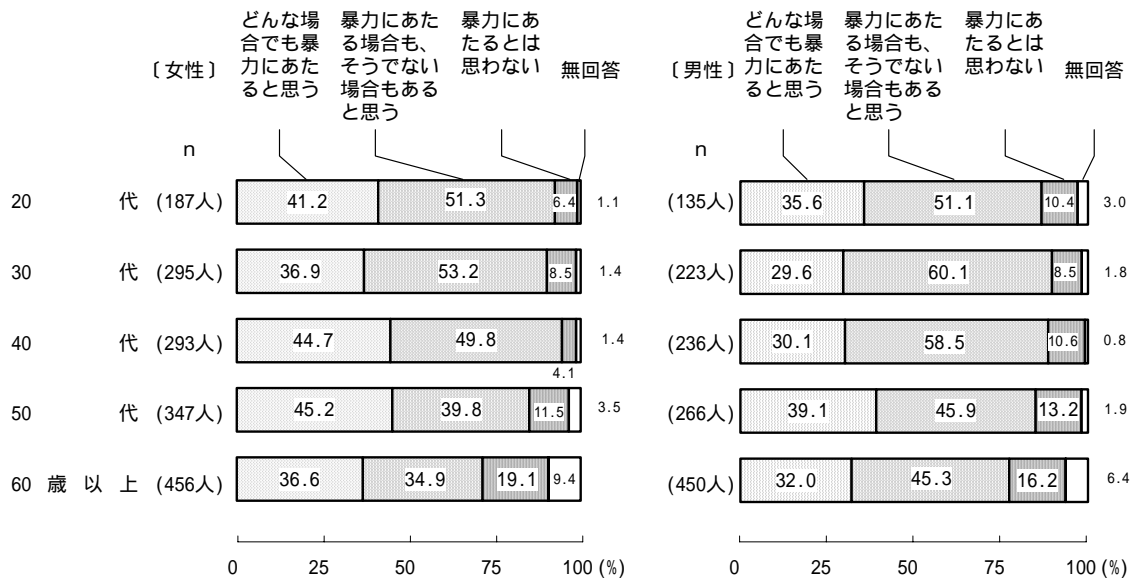
- “「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う”（性・年齢別）



“大声でどなる”ことについては(図2-14)、女性の50代以上の性・年齢層以外では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という人が、「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人を上回っており、特に男性の30代から40代の年齢層では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」人(30代60.1%、40代58.5%)が6割弱と多くなっている。

一方、男性では、いずれの年齢層でも「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」人が、「どんな場合でも暴力にあたると思う」より多くなっている。

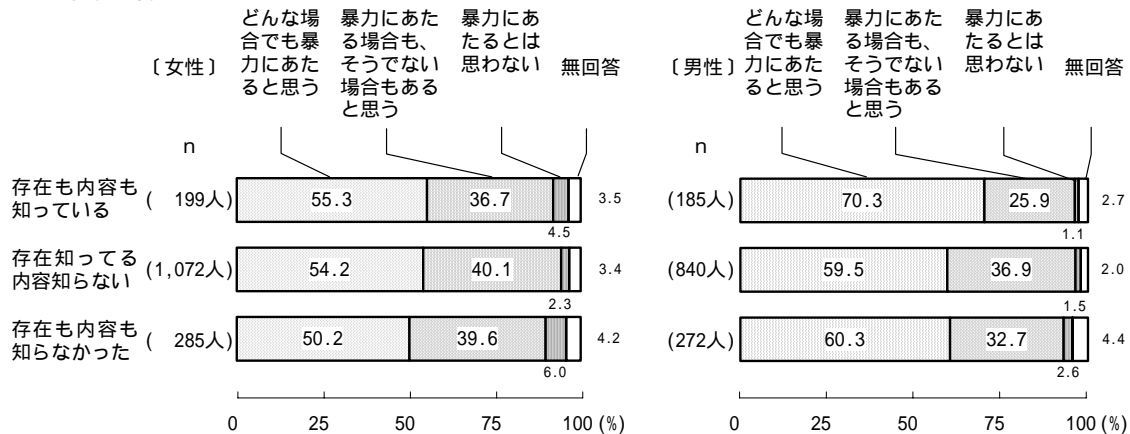
図2-14 夫婦間での行為における暴力としての認識 - “大声でどなる”(性・年齢別)



さらに、それぞれの行為に対する認識を性・配偶者暴力防止法の認知度別にみると（図2 - 15）いずれの行為についても、認知度が高い人に「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答える人が多くなっているが、“身体を傷つける可能性のある物でなくる”“刃物などを突きつけて、おどす”“足でける”といった3つの行為については、法律の存在も知らない人でもほぼ7割以上が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答して暴力としての認識が強く、法律の認知度による差は小さい。

図2 - 15 夫婦間での行為における暴力としての認識（性・配偶者暴力防止法の認知度別）

A 平手で打つ



B 足でける

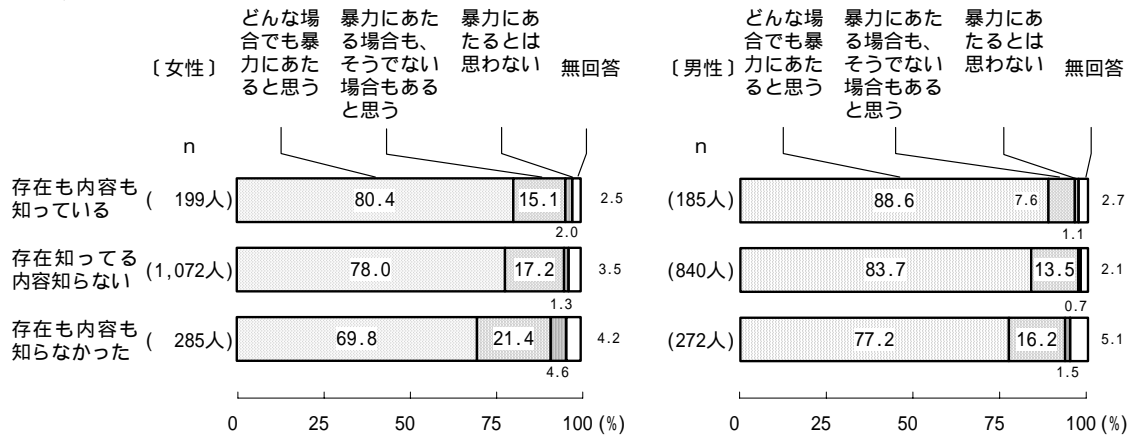
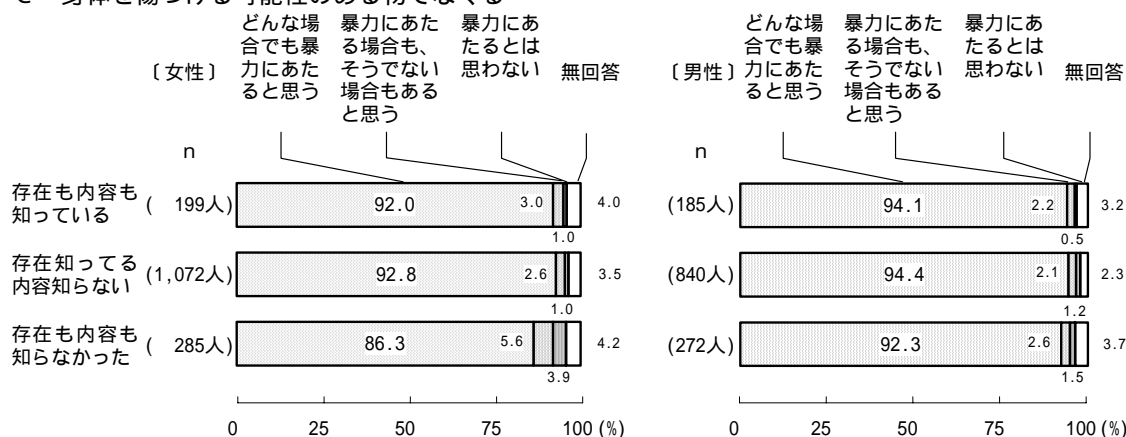
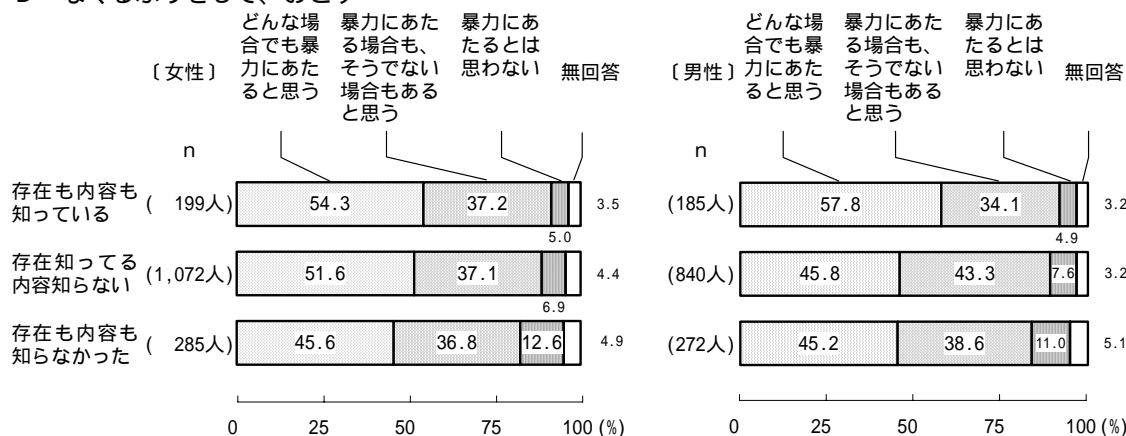


図2 - 15・つづき

C 身体を傷つける可能性のある物でなくる



D なぐるふりをして、おどす



E 刃物などを突きつけて、おどす

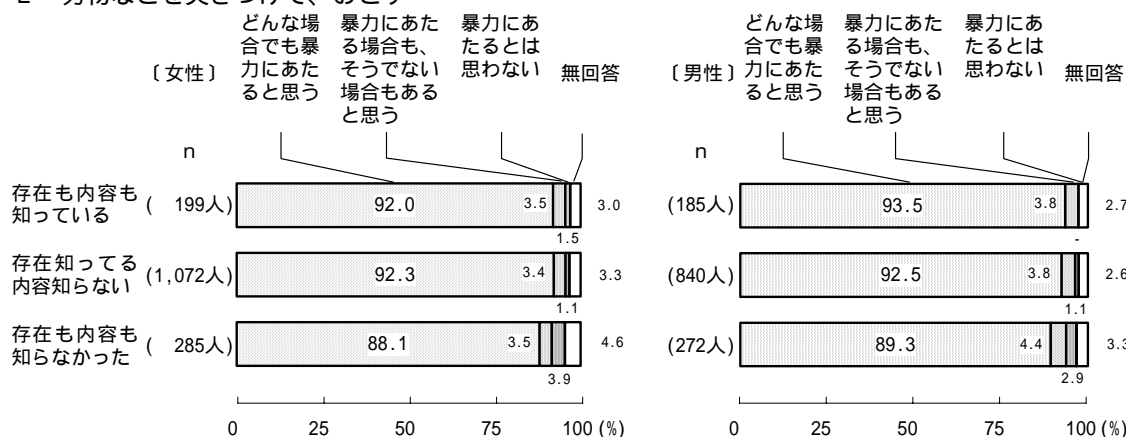
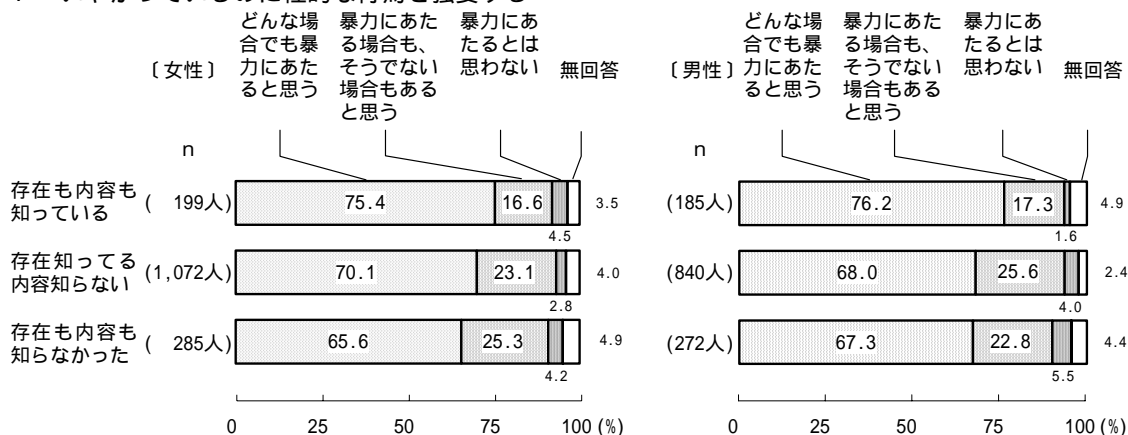
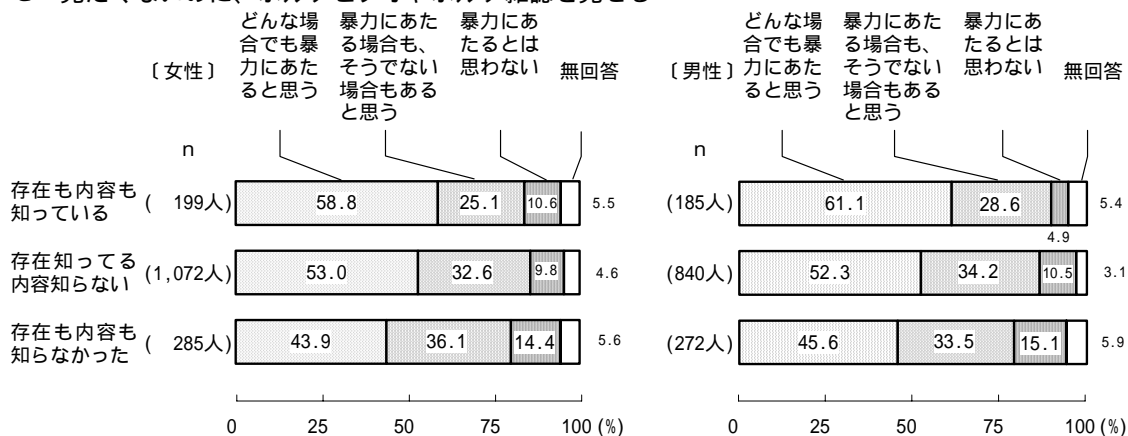


図2 - 15・つづき

F いやがっているのに性的な行為を強要する



G 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる



H 何を言っても長期間無視し続ける

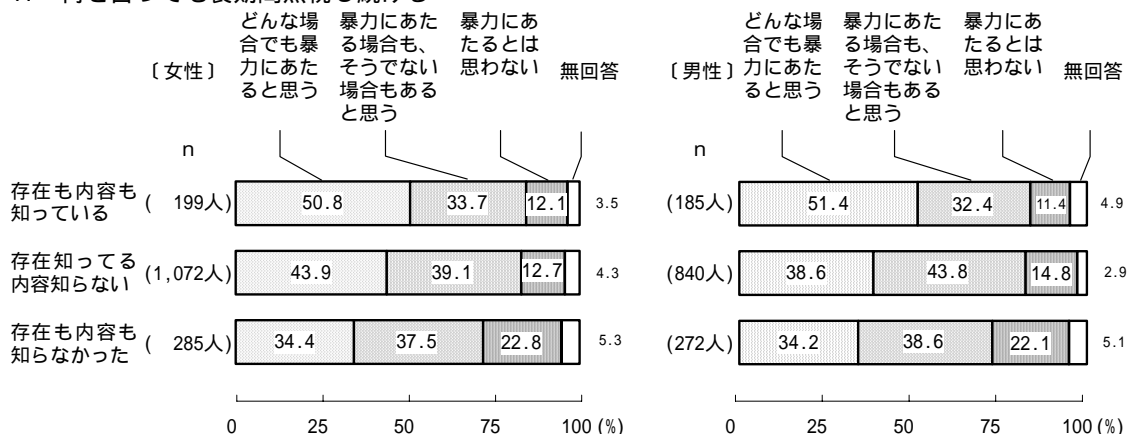
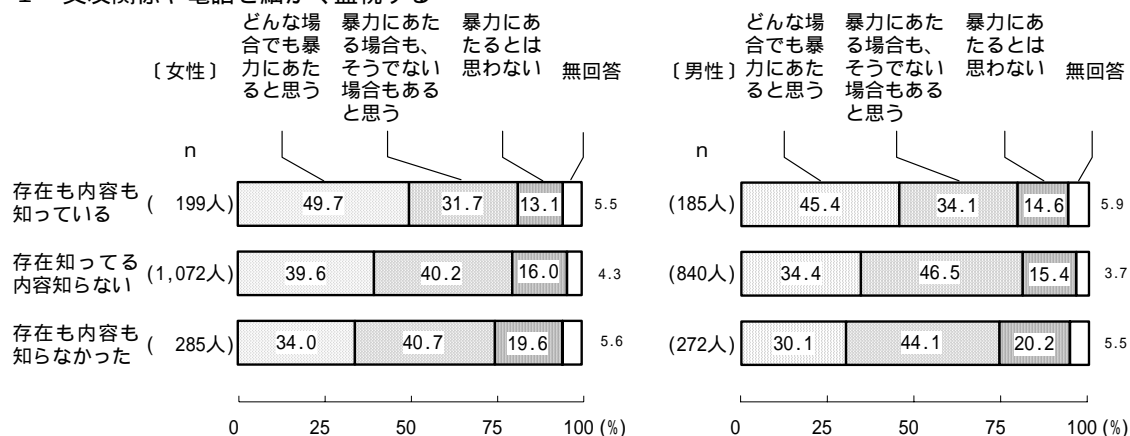
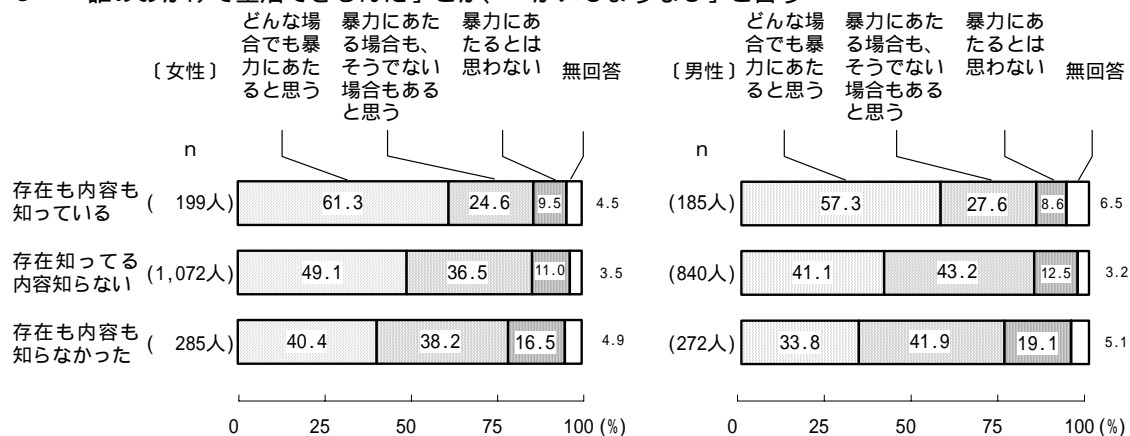


図2 - 15・つづき

I 交友関係や電話を細かく監視する



J 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしようなし」と言う



K 大声でどなる

